

【岐阜女子大学】メタデータ記述用紙

	メタデータ項目	メタデータ記述欄
1	ID	
2	表題名	与那原の歴史
3	資料名	親川広場
4	内容分類	郷土・歴史
5	索引語	与那原、歴史、琉球王朝時代、御新下り、東御廻り、親川、井戸、拝所、文化財
6	説明	<p>与那原の親川には、天地開闢の昔、浜の御殿（御殿山）に舞い降りた天女が、子どもを出産する際に、この湧井の水を産湯に使ったとの神話が伝えられています。</p> <p>与那原の親川は与那原で古くから大切にされている拝所で、豊富な水が湧き出る水場でもありました。周囲を山に囲まれていることもあり、与那原は全域で水が豊富でした。与那原には各地域で水が豊富という利点を生かし池が作られていたそうです。</p> <p>住民の生活に密着した井戸であると同時に、琉球王朝時代には国王の久高島参詣時の休憩場としても使われました。</p> <p>また、琉球の信仰における神女の最高位である聞得大君の就任の儀式である御新下り（おあらおり）や東御廻り（あがりうまーい）の際に御水撫で（うびいなでい）の儀式を行うなど、首里出発後、最初の拝所となった聖地でもあります。</p> <p>*御水撫で（うびいなでい）…[親川から汲んだ御水（うびい）を盛った器に中指を浸し、額を撫でる儀式で、霊力（せじ）を授かり、神と同格になったといわれています。その力で国王や国を災いから退けたとのことです。</p> <p>親川は、人々の祈りの場としてだけでなく、子どもたちの遊び場でもありました。</p> <p>与那原の村立てに関わった竿之増（ソウヌマシ；宗之増とも表記する）にまつわる村井で、与那原村の産井（うぶがー）とされています。1999年4月21日に町指定文化財に指定されました。</p>
7	形式	静止画(jpg)
8	氏名	山里ゆい、平安山愛妃
9	時代・年	2025/02/16
10	地域・場所	沖縄県島尻郡与那原町字与那原 556
11	利用条件	表示 4.0 国際 (CC BY 4.0)
12	関連資料 1	なし
13	権利者	岐阜女子大学
14	協力者	なし

15	登録日	2025/02/16
16	登録者	山里ゆい
17	ファクトデータ	 <p>circd086i-0019. jpg</p>
18	* 特色	<p>沖縄戦と親川</p> <p>沖縄戦で井戸と広場は破壊されましたが、ほぼ同じ敷地に再建されました。戦後も共同井戸として使用されていましたが、1968年に町の水道事業が開始され、現在は水源としては使用されていません。</p> <p>再建後に何度か改修されており、1980年の改修工事で井戸を囲む建物、石灯籠、手洗い場、歌碑が設置され現在の姿となりました。</p> <p>現在も綱曳関連祭祀であるアブシバレー、5月ウマチー、6月ウマチー、アミシの御願に順拝され、元旦の若水もここで汲まれます。</p>
19	* 活用支援	
20	* 利用分野	教育、地域学習、文化、歴史
21	* 改善結果	
22	* 処理プロセス	
23	* 関連資料2	